



高崎健康福祉大学附属幼稚園50周年特集 その4

本園のバス添乗員の〇〇先生に、前回に続いて当時を振り返っていただきました。

「夏」

つい先日のバスの中での年長組さんとの一コマ。

(年長)「先生、楽しみがあるんだ!お泊り保育!!でも少しだけ心配なんだあ。」「ママがいないとねえ。」

(添乗保育者)「そっか、ママがいないとちょっと寂しいね。でもママの代わりにお友だちといっばい遊んで一緒にお布団に入って寝られるんだよ。楽しいよ~!」

(年長)「〇〇先生はお泊り行った事あるん?」

そうです。実は行ったことあるんですよ。

当時は、学園が所有していた「軽井沢山の家」があったんです。高崎駅から中軽井沢まで電車に乗って行きました。保育者

一人で子ども10人を見るグループで、もちろん貸し切りではなく一般の乗客と一緒にした。

子どもたちは、友だちと電車に乗った嬉しさで目が輝いていました。山の家では、友だちとお風呂に入ったり、キャンプファイヤーをしたり、興奮して中々寝られなかった事を思い出します。

プール遊びについて言うと、当時プールがある幼稚園は高崎にはなかったと思います。ビニールプールも今ほど各家庭にはなかったと思います。その時代に、健大幼稚園には、タイル張りの横4.5m、縦6.7m、深さ50cmの立派なプールが造られ、子どもたちの安全を願いプール開きもし



↑ ↓ 軽井沢山の家



ました。夏には高校の体育教師が指導に来てくれて、クラスごとに水に慣れることから始まり、顔つけ、体を浮かせてバタ足まで出来るようになりました。もちろん水遊びも思う存分やりました。高校の先生が相手になってくれて水をかけたり、ホースでかけられたりとっても楽しかった事を思い出します。

(文責 園長)